

事例 5

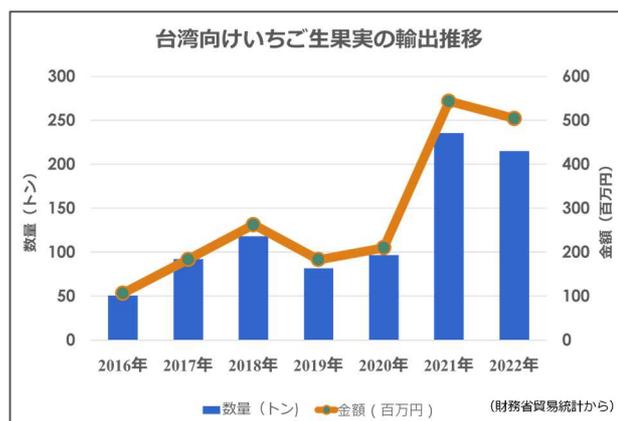
台湾向けイチゴの残留農薬対策に取り組む関係者

【背景・目的】

台湾向けイチゴ生果実については、輸出が年々増加しているところであるが、その一方で台湾の輸入検査において残留農薬が検出され不合格となる事例も増加している。

2022年産では、イチゴ生果実の輸出時期である1月～4月までの間に台湾で残留農薬が原因で不合格となった事例は35件あった。不合格となった基準値超過の主な要因としては、輸出事業者が日本国内用に生産・出荷されたイチゴ生果実を市場調達し、台湾に輸出したためと考えられた。

このため、関係者は、今年度に①台湾向けイチゴ生果実に係る残留農薬のPR活動、②国内輸出事業者等への啓発、③台湾向けイチゴ生果実の輸出に関する勉強会、④台湾仕様でのイチゴ生果実の残留農薬に係るモニタリング検査などに取り組むとし、対策を講じたいとされた。



(財務省貿易統計より)

【台湾向けに輸出されたイチゴ生果実が残留農薬値超過で不合格となった事例】

台湾の衛生福利部食品薬物管理署のホームページに掲載されている情報によると、2022年1月～4月までの間に日本から輸出されたイチゴ生果実の延べ35件から残留農薬基準値超過があったとして不合格となっている。イチゴ生果実で基準値超過となった農薬は表のとおり7剤あるが、クロルフェナピルと



(台湾 衛生福利部食品薬物管理署の HP)

フロニカミドが最も多い。また、これらの農薬は日本では収穫前日まで使用できるが、台湾ではイチゴに使用できず（登録されていない）、その基準値は「不検出」又は「0.01ppm」と設定されている。

・イチゴ生果実で残留農薬基準値超過により不合格となった農薬

成分名	農薬名	延べ 件数	台湾検出 濃度(ppm)	台湾基準 値(ppm)	日本基準 値(ppm)
アクリナトリン	アーデント	1	0.03	不検出	0.3
インドキサカルブ	トルネードエース、 ファイントリン	1	0.02	0.01	1
クロルフェナピル	コテツ	17	0.04～ 0.14	0.01	5
シアントラニリプロール	ベネビア、ベリマー ク	2	0.05 0.08	不検出	1
スピロテトラマト	モベント	1	0.04	不検出	10
ピメトロジン	チェス	1	1.20	1.0	2
フロニカミド	ウララ	14	0.02～ 0.69	0.01	2

(台湾 衛生福利部食品藥物管理署の HP から)

【勉強会での専門家の取組み内容】

専門家は、勉強会において、①台湾での分析方法（日本の一般的な方法との違い）、②代替農薬の紹介、③天敵利用場面で使用できる農薬などの説明を行った。代替農薬については、台湾の残留農薬基準値が日本の基準値と同等又は台湾側が高く設定している主な農薬について紹介した。

・利用できると思われる代替農薬

① 殺虫剤（2022年10月現在）

成分名	農薬名	日本基準 値(ppm)	台湾基準 値(ppm)	適用病害虫
エトキサゾール	バロック	0.5	0.5	ハダニ類
エマメクチン安息 香酸塩	アフアーム	0.1	0.1	オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ハダニ類、ヨトウムシ
クロマフェノジド	マトリック	0.5	0.5	ハスモンヨトウ

成分名	農薬名	日本基準値(ppm)	台湾基準値(ppm)	適用病害虫
クロラントラニリプロール	プレバソン	1	1.0	ハスモンヨトウ
クロルフルアズロン	アタブロン	0.5	0.5	ハスモンヨトウ、ミカンキイロアザミウマ
シエノピラフェン	スターマイト	3	3.0	ハダニ類、シクラメンホコリダニ
シフルメトフェン	ダニサラバ	2	2.0	ハダニ類
シペルメトリン	アグロスリン	2.0	2.0	アブラムシ類
スピノサド	スピノエース	1	1.0	アザミウマ類
テブフェノジド	ロムダン	1	1.0	ハスモンヨトウ
テブフェンピラド	ピラニカ	1	1.0	ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病
テフルベンズロン	ノーモルト	1	1.0	ハスモンヨトウ
ビフェントリン	テルスター	1	2.0	ハダニ類
ピリフルキナゾン	コルト	1	1.0	アブラムシ類、コナジラミ類
フルバリネート	マブリック	0.7	1.0	アブラムシ類
ペルメトリン	アディオオン	1	1.0	アブラムシ類
マラチオン	マラソン	1	1.0	アブラムシ類、ハダニ類、ミカンキイロアザミウマ
ミルベメクチン	コロマイト	0.2	0.2	ハダニ類、シクラメンホコリダニ
メトキシフェノジド	ファルコン	2	2.0	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
還元澱粉糖化物	エコピタ			アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類、うどんこ病
脂肪酸グリセリド	サンクリスタル			アブラムシ類、コナジラミ類
調合油(サフラワ一油および綿実油の含量として)	サフオイル			コナジラミ類、チャノホコリダニ
ヒドロキシプロピルデンプン	粘着くん液			アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類
プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル	アカリタッチ			ハダニ類
ペキロマイセス・フモソロセウス	プリファード	—	—	ワタアブラムシ、コナジラミ類、ハダニ類

成分名	農薬名	日本基準値(ppm)	台湾基準値(ppm)	適用病害虫
ボーベリア・バシ アーナ GHA 株	ボタニガード	—	—	アザミウマ類、アブラムシ類、 ハダニ類、コナジラミ類、コナ ガ
ポリグリセリン脂 肪酸エステル	フーモン			ハダニ類、アブラムシ類、コナ ジラミ類

② 殺菌剤（2022年10月現在）

成分名	農薬名	日本基準値(ppm)	台湾基準値(ppm)	適用病害虫
シアゾファミド	ランマン	0.7	1.0	疫病
トリフルミゾール	トリフミン	1	1.0	じゃのめ病、うどんこ病
プロシミドン	スマレックス	5	5.0	菌核病、灰色かび病
ペンチオピラド	アフエット	3	3.0	うどんこ病、灰色かび病、輪斑 病
硫黄	イオウ			うどんこ病
塩基性塩化銅・硫 黄	イデクリーン			うどんこ病
オレイン酸ナトリ ウム	オレート			うどんこ病、アブラムシ類、コ ナジラミ類
水酸化第二銅	コサイド			炭疽病、角斑細菌病
銅水和剤	IC ボルドー			炭疽病
タラロマイセス・ フラバス	タフパール	—	—	炭疽病
バチルス・ズブチ リス	ボトキラー	—	—	うどんこ病、灰色かび病

【評価・所感】

日本から台湾向けに輸出されたイチゴ生果実については、その後も残留農薬基準値超過で不合格とされる事例が続発している。輸出事業者が日本と台湾の残留農薬基準値の違いに留意して、台湾向けに生産されたイチゴ生果実を輸出するよう心がけ、日本の安心・安全な農産物の輸出が構築できるよう望むものである。その一方で、基準値超過が多いクロルフェナピルやフロニカミドについては、台湾ではイチゴ生果実以外の一部の野菜や果物等では使用できることからインポートトレランス等によりイチゴの残留農薬基準値の見直しにも期待するものである。